

2. 海岸の保全に関する基本的な事項

2. 1 海岸の現況及び保全の方向に関する事項

2. 1. 1 海岸の概要

北見沿岸は北海道北東部に位置し、稚内市、紋別市、網走市の3市、浜頓別町、枝幸町、雄武町、興部町、湧別町、常呂町、小清水町、斜里町の8町、猿払村の1村からなる宗谷岬から知床岬までのオホーツク海に面する海岸である。

総延長約409kmの海岸線は北海道の海岸線延長の13.6%を占めている。沿岸域には日本に残された最後の原始地域といわれる「知床国立公園」、七つの海跡湖からなる「網走国定公園」、ラムサール条約に指定されたクッチャロ湖を有する「北オホーツク道立自然公園」など豊かで雄大な自然、優れた景観、常呂遺跡、最寄貝塚等の貴重な文化財等が多く分布している。また主な河川としては北から渚滑川、湧別川、常呂川、網走川といった一級河川がオホーツク海に注いでいる。

本沿岸は毎年、流水が接岸する地域であり、近年では、流水を観光資源として有効に活用している。

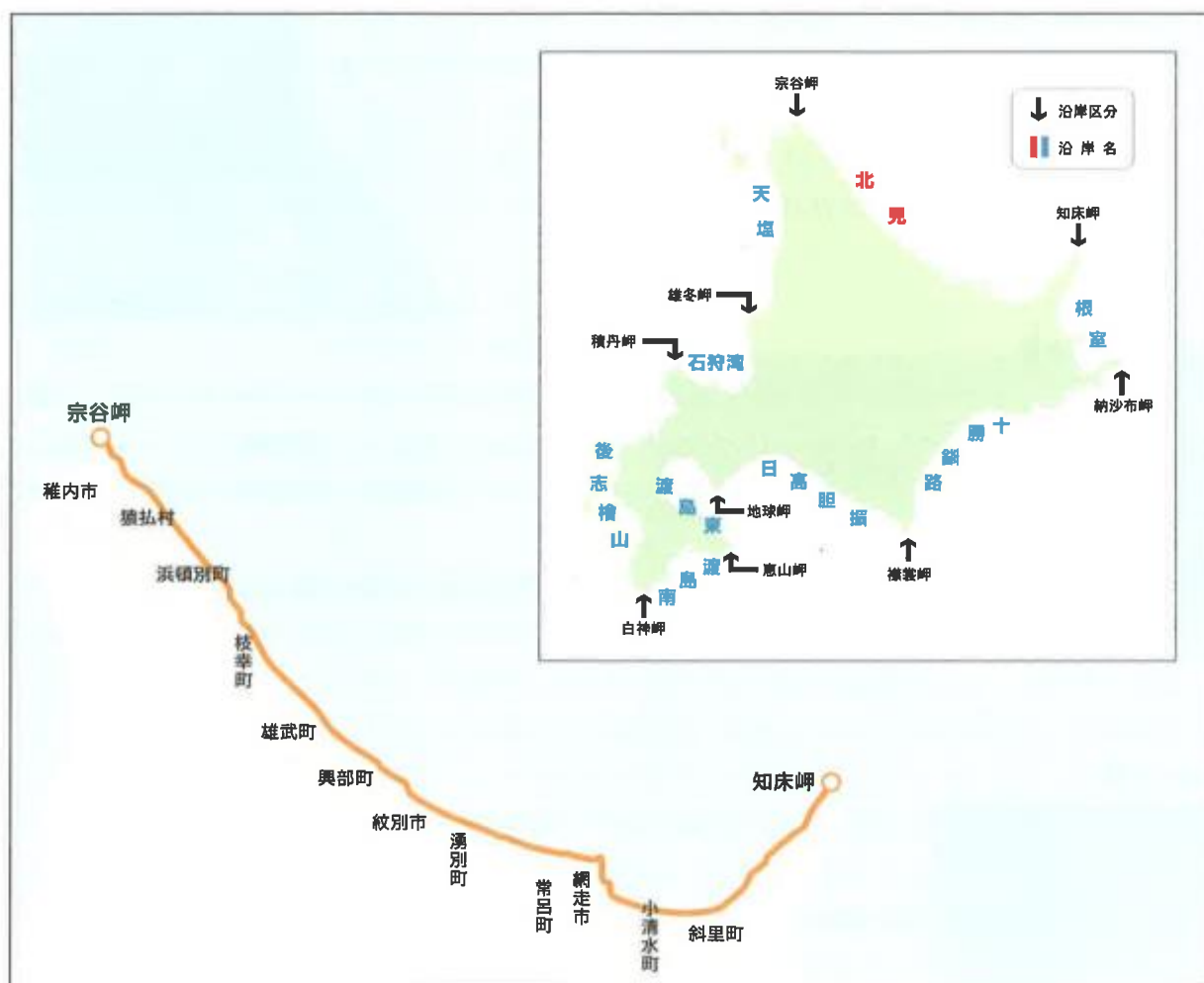


図-2.1.1.1 位置図

2. 1. 2 自然特性

(1) 気象

北見沿岸域はオホーツク海に面する海洋性気候である。春期から夏期にかけてはオホーツク海高気圧からの冷たい風にみまわれ冷涼であり、冬期は内陸部に比べ比較的温暖である。気温は年平均気温で約 5～6℃である。降水量は 8・9 月に多く、3～6 月にかけて少ない。風速は冬期に強く、夏期に弱い。日照時間は道内でも長い地域であり、この特色を活かしたイベントなどが行われている。また 1 月下旬から 3 月にかけて、沿岸部では流氷により海面が覆われるという、オホーツク海特有の特色を持っている。(北海道の気候)

(2) 海象

北見沿岸の波浪特性は紋別港、網走港、宇登呂漁港の波浪観測によると、N 系方向の波浪が卓越し、冬期波高が大きい傾向にある。潮位は紋別で満潮と干潮の差が 140cm 近くあり道内でも潮位差の大きい海域である。海流は春期から夏期にかけて宗谷岬からオホーツク海に流入する宗谷暖流、秋期から冬期にかけて樺太沿岸を南下する東樺太海流(寒流)の影響を受けている。また北見沿岸はオホーツク海に面しているため、1～3 月までの約 3 ヶ月間流氷に閉ざされるという特徴を有している。



(3) 地形・地質

北見沿岸の陸域の地形をみると、山地は低山性の北見山地がオホーツク海に沿うように位置している。低地は徳志別川・幌別川・頓別川流域に平野が分布している。海岸線をみると頓別平野、サロマ湖周辺、小清水・斜里町周辺は砂丘が広がっており、枝幸町から紋別市にかけては海岸段丘が連なっている。

海域の地形は、宗谷岬東方で幅 150 km 以上の日本周辺海域でも特に幅が広い大陸棚が位置している。大陸棚には数段の平坦面が認められ、外縁水深は 140～170m である。地質は、海岸線沿いは主に砂、礫からなり、岩礁域は、宗谷岬周辺、枝幸町、能取岬、知床岬などに点在する。

(4) 水質

海域部では生活環境の保全に関する環境基準(3段階:A,B,C)で、紋別・網走海域が海域別にそれぞれ A 類型(COD2mg/l 以下)、B 類型(COD3mg/l 以下)に指定されている。平成 6～10 年の観測値をみると、紋別・網走海域共に A 類型に指定されている海域で環境基準値を越えている。

次に湖沼部をみると、生活環境の保全に関する環境基準(4段階:AA,A,B,C)で、サロマ湖が A 類型(COD2mg/l 以下)に、網走湖が B 類型(COD3mg/l 以下)に指定されている。平成 6～10 年の観測値をみると、平成 6 年にサロマ湖で環境基準値を越えているが、それ以外の年は環境基準値を満たしている。

また河川部では、生活環境の保全に関する環境基準(6段階:AA,A,B,C,D,E)で、徳志別川、湧別川が A 類型(BOD2mg/l 以下)に、頓別川、北見幌別川、興部川、渚滑川、常呂川、網走川、止別

川，斜里川がB類型（BOD3mg/l 以下）に指定されている。平成6～10年の観測値をみると，平成8，9年に止別川で環境基準値を越えているが，それ以外の年は環境基準値を満たしている。

海水浴場については，平成12年の調査によると海水浴場水質基準（5段階：AA, A, B, C, 不適）で「オホーツクホワイトビーチ」がAA，「ところ常南ビーチ」がAと報告されている。

（5）生物相

①植生

北見沿岸は多くの地域が知床国立公園，網走国定公園，北オホーツク道立自然公園に指定されていることからわかるように貴重な植物，植生の宝庫である。

網走市の女満別湿性植物群落は国の天然記念物に，斜里町の斜里海岸草原群落，湧別町の佐呂間湖畔鶴沼アッケシソウ群落は道の天然記念物に指定されている。また「自然環境保全基礎調査」（環境省）によると「原



生林もしくはそれに近い自然林」として東浦トドマツ林，サロマ湖畔自然休養林，サロマ湖常呂カシワ林，オホーツクの森，能取岬トドマツ林，網走湖畔女満別ヤチダモ林，呼人のハンノギ・ヤチダモ林，知床周辺自然植生が特定植物群落に指定されており，ほかにも多くの特定植物群落が見られる。さらに，海岸線にはハマナス，ハマボウフウなどの身近な海浜植生も生育している。



②陸域生物

鳥類についてみると，北見沿岸では濤沸湖，知床，浜頓別クッチャロ湖が国設鳥獣保護区に指定されているほか多くの道設鳥獣保護区があり，様々な鳥獣の生息地域になっている。知床半島では，シマフクロウ，オジロワシ，オオワシなどの貴重な鳥類が生息しており，濤沸湖，紋別市街のコムケ湖ではオオハクチョウをはじめ，オジロワシ，アオサギなどさまざまな野鳥が飛来している。またクッチャロ湖



は「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）」に登録されており，ハクチョウ，ワシミミズク，シマフクロウなどの生息域となっている。

また，「自然環境保全基礎調査」（環境省）では，哺乳類及び両生類，昆虫類，淡水魚類の調査が行われている。哺乳類は，ヒグマ，キツネ，タヌキ，エゾシカが確認されている。また，能取岬はアザラシの群生地となっている。



両生類は、「北海道レッドデータブック」（北海道，2001）留意種に指定されているエゾサンショウウオが浜頓別町，枝幸町，雄武町から網走市で生息が確認されている。

昆虫類は、「日本国内では，そこにしか産しないと思われる種」としてエトロフハナカミキリが斜里町で確認されている。

淡水魚は、「北海道レッドデータブック」（北海道，2001）希少種に指定されているイシカリワカサギ，留意種のイトヨ，トミヨ，希少種のイバラトミヨ，エゾトミヨが確認されている。

③海域生物

海生魚類については「日本の希少な野生水性生物に関するデータブック」（水産庁編，1998）によると，危急種のニシン，希少種のマツカワが確認されている。

また，「自然環境保全基礎調査」（環境省）によると，北見沿岸では合計 1,400ha 以上の藻場が確認されており，そのほとんどがサロマ湖，網走湖に分布している。全体の 85% をアマモ場が占めており，コンブ場は，稚内市，猿払村，雄武町，興部町，紋別市，網走市，斜里町など岩礁域に分布している。

（6）海岸景観

北見沿岸は森と湖と海が調和した四季折々の自然が豊かな地域であり，この自然を適切に保全するために，「知床国立公園」，「網走国定公園」及び「北オホーツク道立自然公園」に指定されている。知床半島の海食崖や滝，網走・能取・濤沸など大小七つの海跡湖，ハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖など様々な景観が見られ，特に冬期は流氷が接岸するなど他の沿岸ではみられない特色を持っている。

○知床国立公園

知床国立公園 (38,633ha) は北海道の北東端に突き出た知床半島のほぼ北半分を区域とし，原始性の高い優れた自然景観を有する国立公園である。羅臼岳 (1,661m) を主峰とし，硫黄山 (1,563m) ・知床岳 (1,254m) など北東に連なる火山性の脊梁山脈が海食崖や滝を形成して直接海に落ち込み，人を寄せつけない厳しい地形を呈している。植生はハマナス・エゾスカシユリ等の海岸植物からエゾマツ・ミズナラ等の針広混交林，ダケカンバ林，ハイマツ・ガンコウラン等の高山帯まで標高に従い分布している。動物はヒグマ・エゾシカその他，シマフクロウ・オジロワシ等の貴重な野生動物の聖域となっており，冬期には流氷とともにトド・アザラシ・オオワシ等が渡来する。

公園内の大部分が特別保護区 (23,526ha)，第 1 種特別地域 (3,822ha) に指定されており，この優れた景観や自然の生態系が保全されている。



知床岬



流水と知床連峰

○網走国定公園

網走国定公園（37,561ha）は網走市周辺に位置する花々に彩られた国定公園である。わが国第3位の大きさを誇るサロマ湖をはじめとして、網走、能取、濤沸など大小七つの海跡湖が続いており、それらの湖畔には、センダイハギ、エゾリンドウ、スズラン、ヒオウギアヤメなどの花々が咲き競っている。海岸線に沿って広がる砂丘には、ハマナス、エゾキスゲ、エゾスカシユリなどの海浜植物が大群落を形作り、本州などでは見ることのできない原生花園となっている。また、秋期には能取湖周辺を中心にサンゴソウとも呼ばれるアッケシソウが、一面紅のじゅうたんとなって埋めつくしている。冬期はオホーツクの海に広がる流氷が見られる。



小清水原生花園



ワッカ原生花園

○北オホーツク道立自然公園

北オホーツク道立自然公園（3,927ha）は北海道北部のオホーツク海に面した自然公園である。クッチャロ湖・モケウニ沼などの天然湖沼が点在し、その周辺の湿原や海岸砂丘に広がるベニヤ原生花園など、広々とした北方的景観が特徴である。また、ハクチョウなどの水鳥類の大規模な飛来地となっているクッチャロ湖は、「ラムサール条約」の登録湿地である。



クッチャロ湖



ベニヤ原生花園

2. 1. 3 社会的特性

(1) 人口

北見沿岸市町村(3市8町1村)の人口は約18万人(平成7年度国勢調査)で、北海道の人口(約569万人)の約3.2%を占めている。

そのうち、稚内市が約4万5千人(沿岸域の約25.4%)、網走市が約4万4千人(同24.5%)、紋別市が約3万人(同16.7%)と3市に沿岸域の6割以上の人口が集中している。市町村別の人口推移をみると、いずれの市町村においても減少傾向にある。

人口が全ての市町村において減少傾向にあるのに対し、総人口のうち65歳以上の高齢者が占める割合は全市町村で年々増加傾向にあり、高齢化が進みつつある。特に湧別町では22%、雄武町、常呂町、小清水町では20%以上と高い数値を示している。

(2) 産業

北見沿岸市町村(3市8町1村)の就業人口(平成7年度国勢調査)は、95,910人であり、全人口の約53%である。産業別には第1次産業が約17%、第2次産業が約26%、第3次産業が約57%という構成になっている。

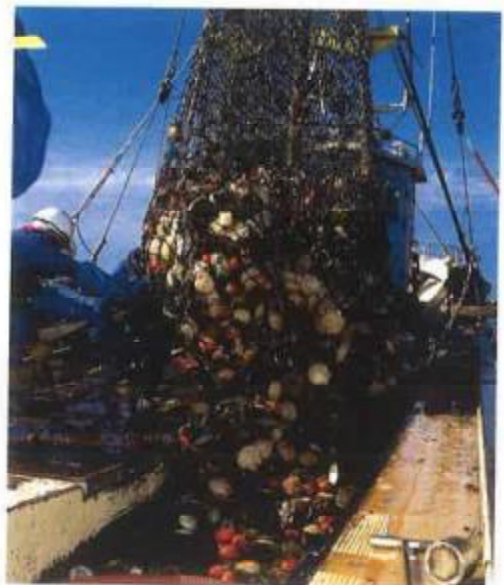
猿払村、湧別町、常呂町などホタテ漁業の盛んな町村では他市町村に比べ漁業就業者数が多い。また、稚内市、紋別市、網走市など人口が多い市町村ほど第3次産業就業者数が多い傾向がある。

(3) 漁業

北見沿岸は、夏から秋には宗谷暖流、冬から春には東樺太海流(寒流)の影響を受け良好な漁場となっている。厳冬期には流氷が接岸し、操業ができなくなるが、水産資源の保護にも役立っていると考えられている。沿岸域はほとんどが砂浜地帯で、ホタテ貝の一大生産地となっている。

北見沿岸域における漁業は生産額で全道の2割弱、生産量で約1/3を占める。

平成10年度の生産量は55万2千トンで、魚種別の内訳は、ホタテ貝が44%、ホッケが24%、さけが9%を占める。また、生産額は691億円で、魚種別の内訳は、生産量と同様にホタテ貝がトップで47%と約半数を占める。



(4) 交通

①道路

北見沿岸は約 409 kmの広大な海岸線に都市が散在するため、交通網として国道 3 路線（238 号、244 号、334 号）が海岸線沿いに整備されている。これらの道路は地域住民の利便性の向上、農林水産物の輸送の確保及び観光産業に重要な役割を果たしている。

②鉄道

北見沿岸の鉄道は、JR 釧網線が網走一斜里間を海岸線沿いに走っており、地域住民の交通手段として重要な役割を果たしている。

③航空

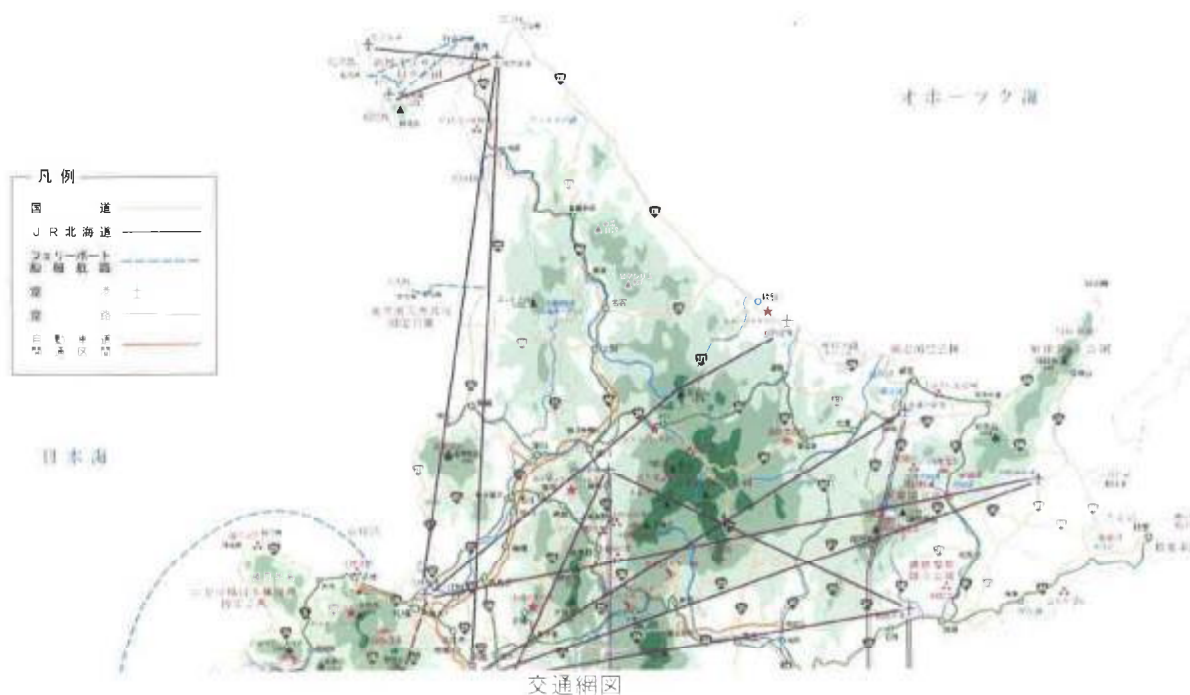
網走支庁圏には女満別空港・オホーツク紋別空港の 2 つの空港が整備されている。女満別空港からは新千歳、函館、羽田、名古屋、関西空港への各路線が、オホーツク紋別空港からは丘珠、羽田空港への各路線が就航している。

④漁港・港湾

北見沿岸は良好な漁場であり、多くの漁港（第 1 種漁港：20 港、第 2 種漁港：7 港、第 4 種漁港：10 港）が整備されている。

また北見沿岸には、重要港湾が 2 港（紋別港、網走港）、地方港湾が 2 港（宗谷港、枝幸港）整備されている。紋別港では、オホーツク海特有の流氷を活かし、流氷に関わる総合的レクリエーション基地建設構想と連動した人工海浜レクリエーション緑地、流氷を海底から見せる海中展望塔など通年利用可能な施設整備を図っている。また、大型国際貨物船に対応するための施設整備をはじめ、オホーツク圏域における物流の中核基地として港湾機能の拡充を図っている。

網走港は紋別港同様、オホーツク海沿岸における流通拠点港として地域経済における中心的な役割を担っている。今後は網走市のまちづくりと一体となった親水空間を形成するために積極的な整備が計画されている。



(5) 歴史・文化

北見沿岸は、縄文文化から擦文文化、オホーツク文化まで、先人達の暮らしを今に伝える遺跡の宝庫である。特に常呂町では2,500以上もの古代の住居跡が確認されており、現在も常呂川水系を中心に、遺跡が発掘されている。また国の史跡としては網走市の桂ヶ丘砦跡、最寄貝塚、常呂遺跡が指定されている。

また、知床半島の海岸線には蛇頭岩、五つ岩、観音岩、オシンコシン崎など伝説の奇岩や岬が存在する。



最寄貝塚



常呂遺跡

(6) 海洋性レクリエーション利用

北見沿岸の海洋性レクリエーション利用についてみると、海水浴場は枝幸町のはまなす海水浴場、常呂町の常南ビーチ、興部町の沙留海水浴場、雄武町の日の出岬海水浴場、紋別市のホワイトビーチの5カ所が設置されており、沿岸域の多くの人々が短い夏を楽しんでいる。また、北見沿岸はサケ・マス釣りが非常に盛んな地域であり、多くの遊漁者を集めている。そのほかの海洋性レクリエーションとしてはシーカヤックが知床半島などで行われており、道外からもその人跡末踏の海岸地形を見に訪れている。ダイビングは冬期に流氷が接岸する特性を活かした流氷ダイビングが人気を呼んでいる。また一部サーフィンや水上バイクなども行われている。平成12年3月には漁港管理条例の改正により、漁業者等の関係機関との調整のもと、プレジャーボート利用に13漁港が開放されている。

さらに毎年各市町村で様々な祭が開催されており、紋別市の紋別流氷まつり、網走市のあばしりオホーツク流氷まつり、斜里町の知床ファンタジア、番屋祭などが賑わいを見せている。



常南ビーチ (常呂町)



釣り (浜頓別町)

(7) 海岸災害と防災

①既往災害の実態

a) 一般災害

北見沿岸は台風や低気圧が引き起こす波浪によって越波、浸水の災害が多く発生している。猿払町では昭和 37, 39, 56 年に低気圧による湛水、家屋等被害に見舞われた。浜頓別町では昭和 48, 59, 63 年、平成元年に、雄武町では昭和 56, 60, 63 年、平成元年に低気圧による湛水、家屋等被害、海岸保全施設の被災に見舞われた。さらに湧別町では昭和 63 年、平成元、2 年に冬期波浪による、湛水、家屋等被害、海岸保全施設の被災に見舞われている。

また湧別町、小清水町、斜里町等の海岸では土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。



雄武地区海岸（雄武町）



東地区海岸（湧別町）

b) 地域の防災体制

地域の防災体制としては、多くの市町村で地域防災計画を制定し、防災知識の普及、防災活動体制の整備等に取り組んでいる。また津波対策として、全ての市町村で避難地が設置されており、特に猿払村、枝幸町、湧別町、常呂町では安全情報伝達施設が整備されている。（海岸ハンドブック、1999～2000）

②海岸事業の変遷

北見沿岸の多くの海岸は昭和 31 年に海岸法が公布された後、海岸保全区域に指定され、昭和 40 年代～50 年代にかけて、護岸主体の線的防護方式による整備が行われてきた。

近年は枝幸海岸岡島地区、猿払海岸知来別地区等で波浪の減衰効果、侵食防止効果が高く、景観的にも優れた人工リーフと護岸とを組み合わせた面的護岸方式を採用し、安全性を高めた整備を行っている。また雄武海岸雄武地区、小清水海岸小清水地区、網走海岸鱒浦地区などでは緩傾斜護岸による整備が行われ、前浜へのアクセスの向上を図り、海とのふれあいの場として利用されている。

このように現在では、防災面だけではなく海岸の利用や自然環境にも配慮した海岸保全施設の整備が進められているところである。



雄武地区海岸（雄武町）

2.2 北見沿岸の問題点並びに長期的な課題と施策

2.2.1 海岸防護に関する事項

(1) 海岸の防護目標

① 目標

北見沿岸は、古来より自然と共に育まれた海域と陸域からなり、環境の急激な変化や海岸際岸の発生、各種利用間の競合など、様々な問題が生じている。このため、これらの諸問題を解決するとともに、地域住民生活の健全な発展と国土の有効な利用を促進するため、安全な海岸づくりを進める必要がある。

② 防護すべき地域

本計画における防護すべき地域は、海岸保全施設が整備されない場合に、防護水準として設定した波浪等による浸水や現在進行中の侵食により、海岸背後の家屋や土地に対して被害の発生が想定される地域とする。

また、津波に対しては「最大クラスの津波に比べ発生頻度が高く（数十年から百数十年に一度程度）、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波（L1津波）」が発生した場合の浸水区域とする。

③ 防護水準

越波等による浸水被害の防護については、過去に発生した既往最高潮位に、適切に推算した波浪の影響を加えて、これらに対して防護することを目標とする。防護水準は、対象海岸の背後状況や地域ニーズに応じ、海岸管理者が適切に設定することとし、地域住民と一体となったソフト面での対策等を図ることにより、総合的な防護を図るものとする。侵食による被害の防護については、現状の汀線を保全・維持することを基本的な目標とするが、侵食が著しく背後地に被害が生じる可能性に応じて汀線の回復を図ることを目標とする。

津波による浸水被害の防護については、稚内市については学識経験者等からなる「北海道日本海沿岸の設計津波水位検討委員会」により設定した「海岸保全施設等の設計に用いる津波の水位」に対して防護することを目標とする。

北見沿岸における防護水準は、次表2.2.1及び表2.2.2のとおりとする。

表2.2.1 防 護 水 準

		町村名	ゾーン名	防 護 水 準		侵食	
				高 潮			
				潮 位	波 浪 Ho(波高), To(周期)		
神威岬	→	稚内市	北オホーツク	計画高潮位 T. P. +1. 3m (D. L. +1. 6m)	Ho=7. 7m~8. 8m To=11. 6s~12. 4s	現状の汀線維持もしくは必要に応じた汀線の回復	
		猿払村					
		浜頓別町		計画高潮位 T. P. +1. 4m (D. L. +1. 9m)			
		枝幸町	枝幸・雄武・興部		Ho=8. 6m~9. 9m To=12. 3s~13. 2s		
		雄武町					
		興部町					
		紋別市					
紋別港港湾区域東端	→	紋別市	紋別・能取	計画高潮位 T. P. +1. 5m (D. L. +2. 1m)	Ho=10. 0m~10. 7m To=13. 3s~13. 6s		
		湧別町					
		北見市(常呂)					
		網走市					
能取岬	→	網走市	小清水				Ho=10. 2~10. 7m To=13. 9~14. 0s
		小清水町					
		斜里町					
糖真布川	→	斜里町	半知島床				Ho=10. 0m To=13. 5s

表2.2.2 設計津波水位

No		振興局	海岸名	箇所名	対象津波	設計津波水位 (T.P. +m)
1	1	宗谷総合	稚内海岸（東浦地区～大岬地区宗谷岬）	稚内市	（推定）青森県西方沖地震津波	+1.5

※設計津波水位については稚内市のみ公表

海岸堤防等の高さは、今後、設計津波水位と低気圧等による高潮・高波に対する必要高を比較のうえ、海岸の機能の多様性への配慮、環境保全、周辺景観との調和、経済性、維持管理の容易性、施工性、公衆の利用等を総合的に考慮する。

(2) 海岸防護に関する現状、課題及び施策

①海岸保全施設の効果維持

□現状

- ・北見沿岸は冬期波浪や台風が引き起こす波浪によって越波、浸水の被害を受けている。このため、護岸や消波堤、離岸堤など海岸保全施設の整備が進められてきたところである。しかし保全機能が十分ではない地域が残っており、また既設の海岸保全施設の老朽化も懸念されている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは6割近くの住民が、海岸の災害について何らかの不安を持っている。今後の防災施設整備についても、大部分の人々が施設整備は必要であると感じている。

□課題

- ・背後地で生活する人々の安全を確保するために、所定の機能が不足している施設や老朽化している施設の改良および施設の新設など、より安全性の高い海岸保全施設による防護機能の向上が必要である。

□施策

- ・施設機能の適切な保持を図るための維持補修、また機能が不足している施設や老朽化している施設の改良を効果的に進めるとともに、建設コストと背後地への効果を勘案し、広範囲にわたり防護効果が発揮されるよう効率的な整備手法の検討を行う。
- ・海岸保全施設の日常的な点検や維持管理などについても損害や異常箇所の早期発見・補修などを行うことができるよう、継続的かつ適切に行う。

②海岸保全施設整備における環境・利用への配慮

□現状

- ・北見沿岸はオホーツク海の良い漁場を活かした漁業の盛んな地域であり、多くの漁港が整備されている。また変化に富んだ長大な海岸線、すぐれた景観などの自然環境に恵まれており、それらを活かした観光、海洋性レクリエーションが行われている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、現在の海岸の防災施設について自然や周辺の景観の調和に欠けていると感じている人が多く、今後の施設整備については自然環境に配慮した整備が特に望まれている。
- ・縦覧意見についても環境・利用面に配慮した海岸保全の要望があがっている。

□課題

- ・海岸保全施設の整備に際しては、背後地の保全などの防護面だけではなく、漁業への影響、豊かな自然環境や景観の保全、観光や海洋性レクリエーションの利便性など多面的な配慮が必要である。

□施策

- ・海岸の防護のみを目的とするのではなく、利便性にも配慮し、緩傾斜護岸の整備といった海岸へのアクセス性の向上にも配慮する。
- ・美しい景観、優れた消波機能を持つ砂浜や、海浜植生も含めた自然海岸の維持に十分配慮し、より高質で安全な海岸整備を行う。

③砂浜の保全

□現状

- ・北見沿岸では土砂収支の不均衡による海岸侵食が生じている。海岸侵食が進むと陸地への浸水被害等が広がるほか、護岸、堤防等の海岸保全施設の基礎を洗掘してしまうため、施設の機能低下の要因ともなる。また砂浜は天然の防災機能、海水浄化機能をするほか、各種の動植物の生息・生育環境や人々の利用の場としても重要な役割を果たしている。

□住民の意見

- ・住民アンケートでは、半数以上の人々が 10 年前と比較して砂浜が狭くなったと感じている。多くの住民が海岸侵食に対し不安を抱いている。
- ・縦覧意見では、特に紋別市、湧別町の住民から「海岸侵食」に関する意見が多く、広域的な観点からの侵食対策、環境・利用に配慮した砂浜の保全が望まれている。

□課題

- ・海岸侵食の対策としては、沿岸漂砂の連続性を勘案するとともに流域の源頭部から海岸までの一貫した領域での土砂収支の定量的な把握を行う必要がある。

□施策

- ・海岸侵食に関する調査研究により広域的な土砂収支の把握及び、侵食原因の解明を図るとともに関係機関と連携した対策を検討する。
- ・緊急性を要する海岸については、早急に海岸保全施設の整備を行う。

④防災ソフト対策の充実

□現状

- ・北見沿岸では過去に冬期波浪や台風が引き起こす波浪によって越波，浸水の被害を受けている．そのため，住民の生活と財産を守り，安心して暮らせる災害に強いまちづくりのため，地域防災計画の策定など各市町村で防災知識の普及，防災活動体制の整備などに取り組んでいる．

□住民の意見

- ・住民アンケートでは，半数以上の人々が何らかの災害に不安を抱いていおり，津波災害に対するハザードマップの作成，避難体制の確立が望まれている．

□課題

- ・越波や浸水の災害に対する防護は海岸保全施設の整備だけでなく，緊急時の避難経路の確保，災害発生時の迅速・適切な情報の収集や発信などソフト面における対策などが必要である．

□施策

- ・越波や浸水の災害に対しては海岸保全施設の整備だけでなく，地域と連携して災害発生時の迅速・適切な情報の収集や発信，危険区域の設置などソフト面における対策を行う．
- ・地域住民の防災意識の向上及び防災知識の普及を進め，地域住民が安心して暮らせる地域づくりを支援する．